

健康保険委員

だより

2017.12 Vol.10

全国健康保険協会
協会けんぽ
茨城支部

《お問い合わせ先》
企画総務グループ
029-303-1580

平成29年度

年金委員・健康保険委員研修会及び表彰式

大盛況のうちに閉会

健康保険委員7名を表彰

平成29年11月28日、ホテルレイクビュー水戸にて「平成29年度 年金委員・健康保険委員研修会及び表彰式」を開催し、社会保険事務・健康保険事業の推進、



発展のためにご活躍いただいている健康保険委員の方々の活動や功績等にご感謝の意を表し表彰を実施いたしました。

表彰式後の講演の部では、フリーアナウンサーの小久保晴代氏より働く世代のストレスの撃退法などについて講演いただき、盛況のうちに終了いたしました。

ご来場いただいた健康保険委員の皆さま、誠にありがとうございました。

【厚生労働大臣表彰】

森田 晴美 様

(一般社団法人茨城県医師会)

森 昌子 様

(社会福祉法人朝日会愛の里)

藤田 美智男 様

(常陸化工株式会社)

笹沼 比呂子 様

(共同測量株式会社)

横田 悦子 様

(株式会社竜ヶ崎自動車教習所)

小池 敏夫 様

(株式会社三和トヨペット)

長谷川 麻美 様 (東京ライト工業株式会社茨城工場)

平成29年度被表彰者の方々

【全国健康保険協会茨城支部長表彰】

身体の不快現象撃退法！

健康管理士・フリーアナウンサー 小久保晴代氏が伝授

健康管理士・フリーアナウンサーでもある小久保氏より「これからの健康管理！生活習慣病や精神疲労など、身体の不快現象撃退法！」と題し、ご講演いただきました。

すきま時間に誰でも簡単にできるストレッチ法を全員で体験しながら学びました。お話の最後には、

リラクゼー

ション効果

のある音楽

が流れ、会場はリラックスマードに包まれました。



新支部長就任のご挨拶



【支部長 木城 洋】平成29年10月1日付けで協会けんぽ茨城支部長に就任しました木城

洋でございます。健康保険委員の皆様には日頃より事業所様と協会けんぽを結ぶパイプ役として、従業員の方への周知広報や相談対応などにご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

協会けんぽは、従来の「政府管掌健康保険」の運営を国から引き継いで10年目の節目を迎えております。

私ども協会けんぽが、現在最も力を入れて取り組んでおりますのが、「健康経営の普及・促進」です。「健康経営」とは、従業員の健康を経営資源と捉え、企業が従業員の健康増進に積極的に取り組むことで、従業員の生産性を向上させ、延いては企業の業績向上と収益向上を目指すものです。茨城支部では、健康経営を進める第一歩として、「健康づくり推進事業所認定制度」を設け、企業の健康づくりをサポートしています。

私ども協会けんぽは、協会の基本使命である「加入者および事業主の利益の実現を図る」ことを目指して、保険者機能のさらなる発揮に取り組んでおります。

健康保険委員の皆様におかれましては、引き続き御理解と御支援をお願い申し上げます。

株式会社トレンディ茨城（一般貨物運送事業）

創業は1978（昭和53）年。水戸ヤクルト販売会社のグループ会社として設立される。2014（平成26）年に水戸市谷津町に移転。水戸ヤクルトグループの物流事業を主体とし、自動販売機を取り扱うベンダー事業のほか、損害保険・生命保険を扱う保険事業など、幅広い分野で事業を展開している。従業員は30名。

【平成28年2月】

協会けんぽ茨城支部の健康づくり推進事業所として認定される

【平成29年8月】

経済産業省・日本健康会議による顕彰制度「健康経営優良法人2017（中小規模法人部門）」に茨城県で初の認定法人となる



【伊藤社長と谷萩総務部長】

■本格的な健康経営に至るまで

社内でラジオ体操を始めて20～30年になります。初めは数人でしたが、今は毎朝8時半に出社している従業員で取り組むようになりました。以前は、体操を掛け声のみで行っていたんですよ（笑）。それが、7～8年前からは音楽付きで行っています。

体操は以前から行っていましたが、協会けんぽ茨城支部に健康づくり推進宣言を行ったり、禁煙喫煙の社内制度を設けるといった“健康経営”の取り組みは3年前からですね。総務が主体となって行っていました。

禁煙に関しては、管理職が非喫煙者のため、ある時期よりは喫煙者が減ってきている印象です。意識の変化が社内にあるのかもしれない。



■健康管理のサポートは必須です

社内部門別の終礼で、総務から季節に応じた健康講話をすることがあります。最近では、インフルエンザ予防接種の会社助成や、がん検診の会社助成等、年間の計画を話しました。通年では、社員でヤクルトの愛飲、手指アルコール消毒の設置、時にはマスク配布も行っています。あとは、年に何回かヤクルト販売会社の管理栄養士から、年度途中に入社した方も含め、全社員が食育指導を受けられるようにしています。ヤクルトの愛飲はインフルエンザ、ノロウイルス対策として罹患率低下の効果があるといわれていますので、他企業にもおすすめできる取り組みです。

少ない人数で仕事を動かしているの、社員の健康管理を会社としてサポートするのは必須ですね。



■インフルエンザ感染者多数の危機的状況から

健康経営に取り組み、欠勤者（病欠）が減りました。取り組み前（3年前）に一時インフルエンザに6人も感染するという状況がありました。社員が出勤できない、それでも仕事を回していけないといけません。それをきっかけに、うがい・手洗いの励行、アルコー

ル消毒等に取り組み出すと、昨年インフルエンザにかかると人は0でした。

■健康経営優良法人2017の反響がありました

認定式に出席しましたが茨城県では一社だけだったので驚きました。その後、メディアには日本経済新聞北茨城版・茨城新聞に掲載されました。周囲からは数件、声を掛けていただきましたよ。今後も茨城県第1号としてPRしていきたいですね。



エントリーにはタイトなスケジュールでしたが、認定項目が普段の取り組み内容であったので、短期間で集中して行えました。具体的には、社内メールを活用して健康経営に関する情報共有をしていたため、それらを資料として提出したので、新たな資料作成等なく、スムーズにエントリーにつなげることができました。



健康経営が トレンドの 時代へ

伊藤社長曰く「従業員への投資という健康経営は、まだまだこれから。」とのこと。「永年勤続者には人間ドックをプレゼントするようなことも考えています。」と今後の展望を語り、「今までの取り組みの継続や予防接種の会社助成の拡充、健康に対する啓発を今後も続けていきたい。」と、健康経営にこれからも意欲的に取り組まれる様子。伊藤社長自らもウォーキングを毎日行うなど、健康づくりに積極的に取り組み、茨城県の健康経営をけん引していかれることでしょう。

取材協力日：平成29年10月17日